



伊万里港（七ツ島地区）道路（橋梁上部工）工事【佐賀県】

# 第74期 株主通信

2021年4月1日～2022年3月31日

 株式会社 ピーエス三菱

証券コード：1871



## 事業環境の大きな転換期において 環境に配慮した事業活動を推進し 成長分野における収益力を強化するため 建設DXの推進と多様な人財活用により 生産性を進化させることに努めてまいります

代表取締役 社長執行役員

森 拓也

### ■ 当年度の事業環境について

当連結会計年度における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、依然として制約された経済活動を余儀なくされてきました。緊急事態宣言が断続的に発出され、個人消費や設備投資は一進一退となり、景気回復は前年度に比べて鈍化しました。ワクチン接種や病床使用率の低下、生活様式の変化により、以前のような大きな混乱には至らないものの、ロシア・ウクライナ情勢により、原油等の燃料や穀物・木材等が高騰しており、感染症拡大前の景気まで回復するには今しばらく時間を要するものと思われます。

当社グループが属する建設産業においては、公共建設投資が引き続き堅調に推移しているものの、建設産業就労人口の減少という大きな課題を抱えており、ワークライフバランスの推進やICTの活用などの対応を進めておりますが、依然として見通しは大変不透明な状況にあります。

このような経済状況の下、当社は「中期経営計画2019」の基本方針に基づき、最終年度においても収益基盤の強化と成長分野の拡大に努めてまいりました。

### ■ 今後の取り組みについて

当社を取り巻く事業環境は、建築事業でコロナ禍により中断されていた民間設備投資が再開したものの熾烈な受注競争が始まり、さらには高騰する資材価格の影響が深刻なコスト高の懸念材料となっております。一方、土木事業では国土強靱化対策やインフラ設備の老朽化に伴う維持修繕工事が最盛期を迎えており、公共工事の発注量は引き続き高水準で推移していくことが期待されます。新設から維持修繕への質的变化で大きな転換期を迎えている中、労働人口の減少、多様な働き方といった社会情勢変化への対応や地球環境に対する企業の取り組み強化は今後ますます強く求められるものと予想されます。

斯かる事業環境を鑑み、当社グループでは長期的な経営ビジョンを見直し、その実現に向けた「中期経営計画2022」を策定しました。環境や社会の変化を経営の重要課題に掲げ、当社グループとして持続可能な社会の実現に貢献できるよう事業活動に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

# 中期経営計画2022始動！

5月12日に公表いたしました「中期経営計画2022」について概要をご説明いたします。

## 前中期経営計画2019（2019年度～2021年度）の振り返り

（単位：億円）

連結業績	計画数値	実績数値		
	最終年度	2019年度	2020年度	2021年度
受注高	1,200	1,170	1,264	1,125
売上高	1,180	1,057	1,172	1,096
営業利益	49.0	48.8	84.0	66.1
	4.2%	4.6%	7.2%	6.0%
ROE	9.0%	8.9%	14.2%	10.3%
ROA	5.0%	5.5%	9.2%	7.1%

当社グループでは、2019年5月に「さらなる収益基盤の強化と変革による成長分野の拡大」をスローガンに掲げた中期経営計画2019を公表し、その実現に向けて各種施策に取り組んでまいりました。

計画期間のほとんどがウィズコロナとなる厳しい外部環境の下、建築、海外事業では影響を強く受け、受注に苦戦し、最終年度では、受注高、売上高とも目標未達となりました。

収益面では、土木事業での新設橋梁から大規模更新・修繕やメンテナンス分野への事業シフトが想定より早く進む中で、事業体制の強化が図られ、収益力の向上により利益は計画値を上回り、経営基盤の強化については着実に進んだ結果となりました。

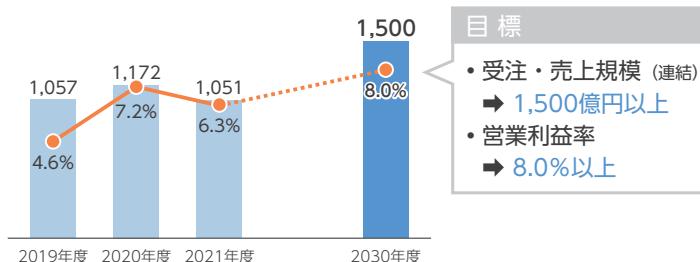
## 長期経営ビジョン

プレストレストコンクリート技術の先駆者としてさらなる深化と新技術への飽くなきチャレンジで、地球にやさしく、安全で快適な社会の実現に貢献する。

今後、当社を取り巻く環境が著しく変化してもプレストレストコンクリート業界の先駆者として培ってきた技術にさらに磨きをかけるとともに私たちは新たな技術を創出するチャレンジャーであるということを強く意識し、事業活動を通じて地球環境や社会に貢献できる企業集団を目指し取り組んでまいります。

特に地球環境については、可及的速やかな対応が求められており、これまで以上にカーボンニュートラルへの取り組みが必要となります。当社では、環境に特化した「THE GREEN VISION」を策定し、まずは2030年度をマイルストーンに定め、積極的な地球環境への取り組みを推し進めてまいります。

### 事業規模・業績数値（億円）



### 2030年に目指す指標

## THE GREEN VISION

「つよさ」と「やさしさ」を兼ね備えた建設技術を追求し、人と地球が共生する持続可能な未来を実現する。



## 中期経営計画のテーマ

環境に配慮した事業活動を推進し、成長分野における収益力を強化するため、建設DXの推進と多様な人財活用により生産性を進化させる。

### 基本方針

社会・環境課題の解決を事業機会とし成長を実現させる

カーボンニュートラルの推進と新技術開発を追求する

DXを活用した業務改革を推進する

事業環境変化や新技術に対応した人財育成と外部連携を強化する

THE GREEN VISIONに向けた積極的な環境活動を進め、社会・環境課題の解決を事業機会としてカーボンニュートラルの推進と新技術開発を追求します。成長分野（大規模更新工事・PC建築・メンテナンス・海外）での収益力強化は労働力の確保と生産性の向上が喫緊の課題と捉え、IoT・ICTを最大限に活用した建設DXを推し進めるとともに、当社グループ社員だけでなく協会社も含めた能力向上を図り、生産性を向上させることを最優先に取り組んでまいります。

また、ワークライフバランスを推進し、事業環境変化に即応する人財育成や外部連携を強化してまいります。

### 事業目標・戦略

社会の信頼を獲得するための最低条件となる「安全」・「品質」・「CSR」の徹底はもとより、当社グループ丸となって「現場力」の向上に努めてまいります。各事業部門ではそれぞれが抱える環境・社会の課題を踏まえた事業目標を設定し、課題の解決にとどまらず収益機会となるよう事業戦略を立案・実行することにより、事業規模拡大や収益基盤強化といった自らの成長に繋げてまいります。（各事業部門の詳細は右頁ご参照）

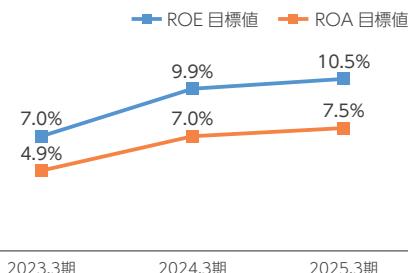
また、技術開発やDX推進、人財育成・外部連携といった基盤戦略についても同時に取り組み、目標達成に向けた厚みのある取り組みを進めていくことといたします。

## 資本政策・経営指標

長期経営ビジョンの実現に向け、財務基盤や健全性を確保した上で「生産性・収益性の強化」や「成長分野の拡大」に向けた投資を行い、マルチステークホルダーにとって有益な価値を提供できる強い企業集団を目指してまいります。

### ■ 資本政策（最終年度）

- ・ 営業利益率 **6.0%以上**
- ・ ROE **10.5%以上**
- ・ ROA **7.5%以上**



### ■ 財務の健全性（単年度）

- ・ 自己資本比率 **40%以上**
- ・ DEレシオ **0.30倍以下**



## 土木事業

橋梁の更新・修繕と新設PC構造物のトップ企業を目指す

- 大規模更新・メンテナンス分野における施工体制強化に努める
- 工事のさらなる生産性、収益性、施工安全性を向上させる施策を立案し実行する
- PC工事（新設・更新・修繕）の受注に注力し、PC業界におけるトップランナーの地位を維持する



## 建築事業

建築部門の基盤強化を図り、注力すべき市場を中心とした安定受注ができる事業体制を構築する

- 注力分野のノウハウ蓄積と実績を着実に積み重ね、総合力を高める
- 外部連携強化により技術力・生産性を向上させる
- 情報収集能力を高め、戦略的な受注活動を推進する



## 海外事業

ODA案件を中心に取り組むとともに、建築工事への参画を目指し、海外事業の基盤を強化する

- 外部人財の登用や海外ネットワークを充実させ、事業基盤の強化を図る
- ODA案件をターゲットにアジア、アフリカ地域を中心に工事受注を拡大する



## 製造事業（国内・海外）

- **国内** プレキャスト化時代を見据え、高品質な製品の供給と迅速な対応で顧客要求に応える
- **海外** アジア地区におけるプレキャスト部材を含む建築工事に参画し、海外での建築事業の基礎を固める



## 兼業事業

- 不動産関連事業の拡大と収益基盤の強化を図る

### ■ 投資計画（3ヵ年累計100億円）

設備投資	機材・工場設備等の更新、工場オートメーション化等	40億円
研究開発	PSMAX、試験研究の推進	20億円
人財	人財育成研修、福利厚生充実、人財確保（採用活動強化）	15億円
不動産	ストック事業の促進	25億円

### ■ 株主還元（単年度）

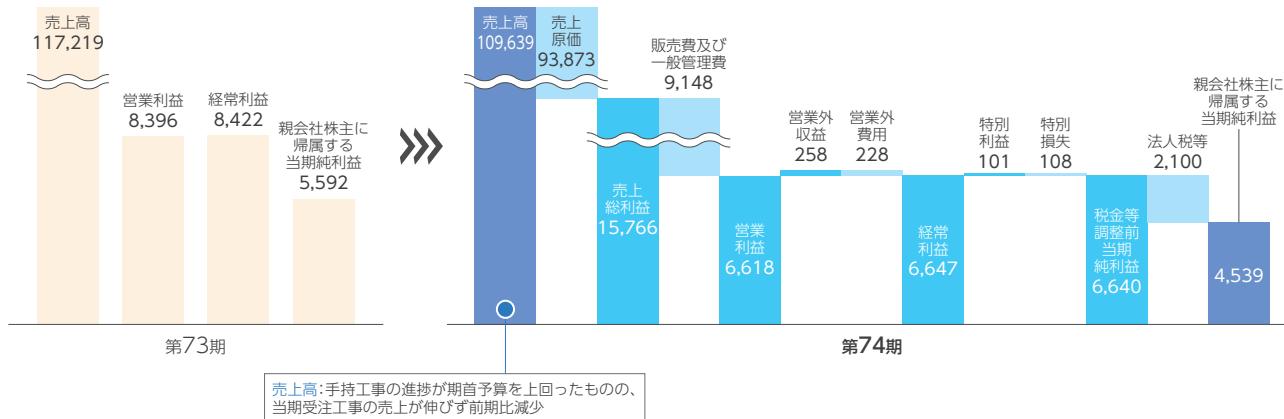
配当性向 **40%以上**

# 連結財務ハイライト

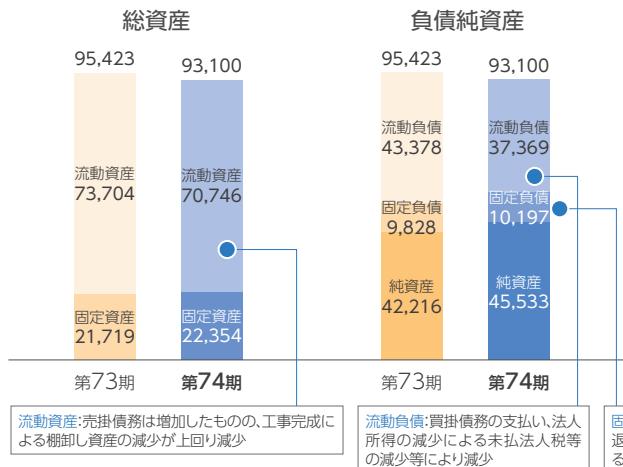
## 当期のポイント

▶ 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で減少するも期首計画より大幅増加となり、前期に次ぐ好業績

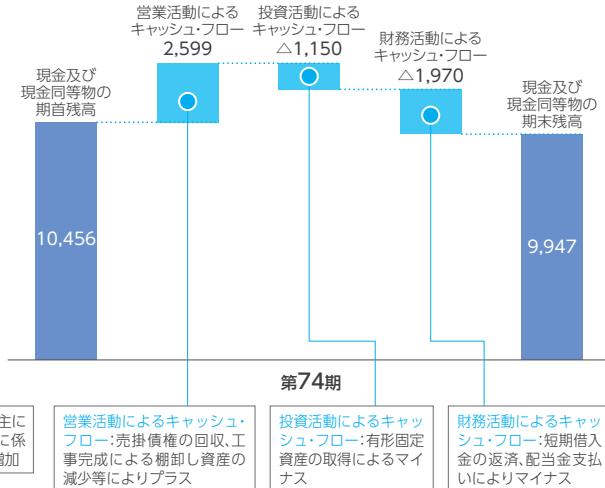
### 連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)



### 連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)



### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)



# セグメント別ハイライト

## 土木事業

受注高 **77,799**百万円  
前期比 3.0% ↓

売上高 **67,550**百万円  
前期比 8.6% ↓

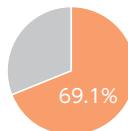
売上総利益 **11,856**百万円  
前期比 11.5% ↓



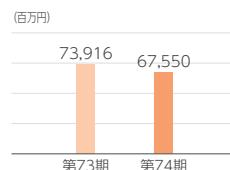
### 受注高



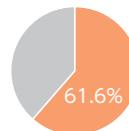
受注構成比



### 売上高



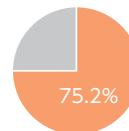
売上高構成比



### 売上総利益



売上総利益構成比



#### 当期のポイント

受注・売上は前年と同程度。利益は設計変更獲得および原価低減等に取り組むも減少しました

## 建築事業

受注高 **32,859**百万円  
前期比 25.1% ↓

売上高 **40,160**百万円  
前期比 2.1% ↓

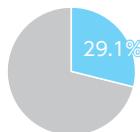
売上総利益 **3,635**百万円  
前期比 7.2% ↓



### 受注高



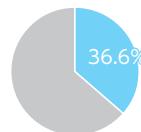
受注構成比



### 売上高



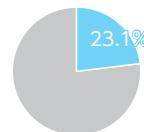
売上高構成比



### 売上総利益



売上総利益構成比



#### 当期のポイント

受注は官庁案件入札への注力および新規顧客への取り組みを行うも減少、売上・利益は当期受注案件が伸びず減少しました

## 製造 その他 事業

受注高 **1,928**百万円  
前期比 16.1% ↓

売上高 **1,928**百万円  
前期比 16.1% ↓

売上総利益 **273**百万円  
前期比 13.0% ↓

#### 当期のポイント

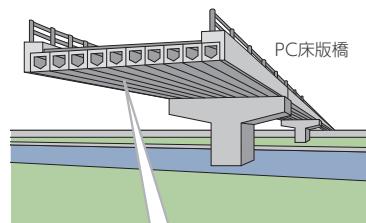
受注・売上は収益認識会計基準適用により減少、利益は売上高の減少により減少しました

ジック

## Znカートリッジ工法の拡大に向けた取り組み —外部電源不要で施工が容易な腐食抑制工法—

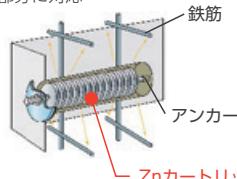
Znカートリッジ工法は、海水や凍結防止剤などによる塩害に対するコンクリート構造物のメンテナンス工法です。コンクリート表面に配置した「Zn(亜鉛)カートリッジ」と内部鉄筋とを接続し亜鉛が反応することで防食電流を発生させ、電気化学的に鋼材腐食(サビ)を抑制します。外部からの電流供給が不要な上、亜鉛が消耗した場合の取り替えも容易で維持管理面にも優れています。構造物の形式や腐食箇所の条件により、カートリッジは「インサートタイプ」と「サーフェスタップ」の使い分けが可能です。

また、当社が開発した遠隔モニタリングシステムとZnカートリッジ工法を組み合わせることで、実際に現地に行かなくても鋼材の腐食状況をパソコンで確認できるなど、橋梁の維持管理システムとしての実用化を目指した実証実験を進めています。



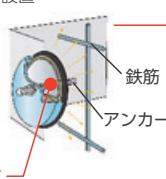
### インサートタイプ

コンクリートの深い部分に対応



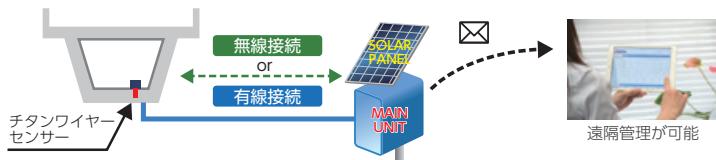
### サーフェスタップ

コンクリート表面に設置



PC床版橋底面へのサーフェスタップの設置状況

### 当社の橋梁維持管理システム概要図



1

### 低コスト

電源装置不要で大幅なコスト削減が可能  
小規模な腐食部分に1個から取り付け可能

2

### 現場施工が容易

鋼材の位置を確認して設置するのみ  
施工と交換が容易

3

### 優れた耐久性

約15年の耐久性を持ち交換可能

## interview



技術本部技術部  
白水 祐一

### ■アピールポイントは？

局部的に発生したコンクリートの塩害に対して、構造物を傷めることなく対策可能な工法です。

産官学の共同研究で実際の構造物を対象に約3年間の長期試験を行った結果、効果の高い防食方法であると実証されており、現在保有している技術の中で一番効率的で、特長のある工法と考えます。

### ■推奨したいケースは？

塩害は早期の対策が重要です。維持管理費が限られる地方自治体などでは、管理する構造物の予防保全として採用していただくと、最大限の効果を発揮できると思います。

### ■今後の展開は？

まずは施工実績を増やし、発注者様のご意見も参考に改良を重ねて、バリエーションを増やしていきたいと考えています。

# 鉄筋の立体配置を認識する「配筋検査システム」を共同研究開発 2022年度に実証実験開始

共同研究参画会社21社(以下「共研21社」※1)とプライム ライフ テクノロジーズ株式会社(以下「PLT※2」)は2020年9月に共同研究開発契約を結び、鉄筋の立体配置を認識する「配筋検査システム」の開発を進めています。このシステムは専用カメラで撮影し、検査部位の鉄筋の本数、鉄筋径、間隔、配置を立体的に捉えて認識する仕組みとなっています。共研21社と PLTは、検査業務時間の60%削減を目指し2022年度に建設現場にて実証実験を行い、2023年度からの本格運用を目指します。

## ■ 配筋検査システムの概要

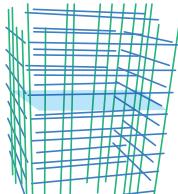
本システムの特長は鉄筋の立体配置を認識する点であり、配筋検査システムの实証実験を目指す仕様の概要は以下に示す通りです。

現場写真でのAR表示

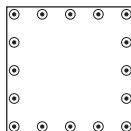


(イメージ)

立体配置



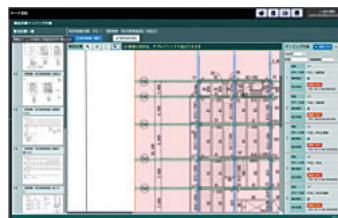
断面配置



専用カメラデバイス(3眼カメラ)



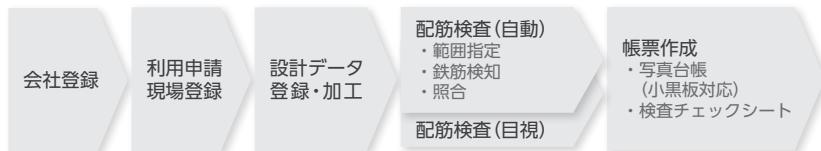
設計データ入力画面(例)



## 実証実験で目標とする性能

鉄筋検出率：100% (過検出を含む)  
鉄筋径判別：判定率95%以上(10mm~51mm)  
撮影時間：1分以内  
撮影条件  
・撮影距離 0.5m~2.5m  
・明るい場所  
・逆光で無いこと  
・対象とする鉄筋を遮るものが無いこと

## ■ システムの流れ



※1 共同研究参画会社21社(50音順)

青木あすなる建設株式会社 株式会社浅沼組 株式会社安藤・間 株式会社奥村組 北野建設株式会社 株式会社熊谷組 五洋建設株式会社  
佐藤工業株式会社 大末建設株式会社 高松建設株式会社 鉄建建設株式会社 東急建設株式会社 戸田建設株式会社 飛鳥建設株式会社  
西松建設株式会社 日本国土開発株式会社 株式会社長谷工コーポレーション 株式会社ピーエス三菱 株式会社松村組 村本建設株式会社  
矢作建設工業株式会社 (2022年3月現在)

※2 2020年1月に設立。パナソニック ホームズ株式会社、トヨタホーム株式会社、ミサワホーム株式会社、パナソニック建設エンジニアリング株式会社、株式会社松村組のグループ5社が持つ住宅やまちづくり、建設技術などを融合し、まち全体でくらしの新たな価値やサービス創出を目指している。

# 「THE GREEN VISION」の取り組み

当社では、今年度よりサステナビリティ推進室を設置し、社会・環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る最重要課題を理解し、事業活動を通じてそれらの課題を解決するための取り組みを強化していくことといたしました。

最重要課題のひとつとして、2030年の低炭素社会の実現に向けて「THE GREEN VISION」を掲げ、3つのターゲットを定めた地球環境保全の取り組みを積極的に進めてまいります。

## ピーエス三菱の最重要課題

### 環境 ENVIRONMENT

- 気候変動への対応
- 資源循環型社会の推進
- 汚染予防の徹底
- 生物多様性の保全

### 社会 SOCIAL

- ライフサイクルを考慮した社会インフラの整備
- 防災・減災対策の高度化
- 社会の要請に応じた建設生産物の提供
- 生産・施工体制のレジリエンス

### 企業統治 GOVERNANCE

- 労働安全の確保
- 労働生産性の向上
- ワークライフバランスの推進
- 技能労働者も含めた多様な人財の活用と育成
- ESGを重視したサプライチェーンの確立
- 人権尊重
- コンプライアンスの徹底



## THE GREEN VISION 「3つのターゲット」



温室効果ガスの排出を抑制し、脱・低炭素社会の実現に貢献する



廃棄物の発生抑制やリサイクルに努め資源循環型社会に貢献する



土壌・水質等の汚染予防を配慮した施工を行い、人と自然の共生に貢献する

Scope1：自社の直接排出するGHG  
Scope2：自社の間接排出するGHG  
Scope3：サプライチェーンで排出するGHG

# CSR活動

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をより徹底していたため、昨年度以上に多くの社外向けの活動が制限される状況でした。そのような中でも建設業や当社へのご理解をより一層深めていただくために、十分な感染防止対策を講じた上で開催することができたCSR活動の一端である「地域社会への貢献」の一部をご紹介します。

## 現場見学会の開催

2021年12月に兵庫県の工事現場近くの小学生33名を対象に現場見学会を開催することができました。見学会では、測量体験などを実施し、測量機器を覗くと遠くに設置した絵が鮮明に見えた時の「見えたー!」という歓喜の声にわたしたちまで嬉しくなり、その元気な姿に工事完成へのエネルギーをもらうことができました。

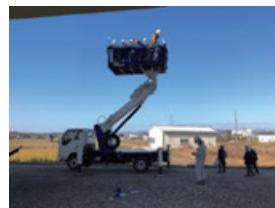
## デザイン学科学生による「作業所ロゴ」の制作



大阪府の土丸橋補修工事は、当社と神戸大学との共同開発による特許工法「リパッシブ工法」で施工され、多くの方が視察される注目度の高い工事です。リパッシブ工法のPRの一環として、京都芸術大学キャラクターデザイン学科ビジネスプロデュースゼミ（指導教員川向先生）の学生に作業所ロゴをデザインしてもらいました。

東京オリンピック1964のロゴをモチーフに土丸橋を描き、現場近くの修験道『犬鳴山』の不動明王の炎を犬の形にアレンジしたとのことで、当作業所の欠かせないPRアイテムとなりました。

◀ロゴデザインしてくれた学生の方々が見学に来てくれました



上) 橋面へのお絵描き 下左) 工事車両への乗車体験 下右) 測量体験

「リスクマネジメントの推進」「コンプライアンスの推進」「ステークホルダーコミュニケーションの推進」「地域社会への貢献」をCSR基本活動方針に掲げ、「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」という基本理念の実現に向けて、社会との繋がりを考えた事業活動を行っております。また、そのためのPDCA（計画・実行・評価・改善）を実践し、充実したCSR活動を行うことでステークホルダーの皆様からの信頼向上を図るべく取り組んでいます。

## CSR報告書2021

当社ホームページ内「CSR報告書」にて、CSR活動の情報がご覧いただけます。

アドレスはこちら ▶ <https://www.psmic.co.jp/about/csr/>



# 完成工事のご紹介・・・土木編



## つねくにぼし 常国橋他2橋床版取替工事 [広島県]

本工事は、中国自動車道の吉和IC～六日市ICに位置する3橋(常国橋・三和橋・浦石橋)の鉄筋コンクリート床版をプレキャストPC床版に取り替える高速道路リニューアル工事です。

橋梁の耐久性向上や長寿命化を図ることで高速道路における道路保全や交通安全に貢献しています。



## R2東関東道小泉高架橋下部その1工事 [茨城県]

本工事は、東関東自動車道水戸線のうち潮来いたこIC～鉾田IC区間(延長30.9km)にある小泉高架橋の下部工事です。

全線開通後は、重要港湾群(鹿島港・茨城港)や国際拠点である成田国際空港・茨城空港へのアクセス向上、また常磐自動車道および国道51号の災害時の代替路線の確保を図るとともに、北関東地域と東関東地域の連携交流の促進が期待されています。



## ふさのくに観光道路工事 (仮称)新宿跨線橋上部工 (P3～A2) [千葉県]

本工事は、一般県道下総橋停車場東城線しもうらバイパスのうち、JR東日本の成田線を跨ぐ橋長91mの新宿跨線橋(P3～A2)の上部工事です。

この道路は、千葉県のふさのくに観光道路に指定されており、東総地域と茨城県鹿島地域を結び千葉県東部地域の活性化に必要なものです。また、東庄工業団地と茨城県波崎工業団地や鹿島工業団地との連携など、今後における地域産業の活性化の促進が期待されています。



## 広域営農団地農道整備事業 能登外浦4期地区千代工区 橋梁工事

〔石川県〕

本工事は、「<sup>(ほく)</sup>羽咋広域営農団地整備計画」に基づき整備される基幹農道（総延長約61km）のうち、石川県輪島市門前町に位置する橋梁工事（上部工：PC2径間連続箱桁橋、下部工：橋脚工および深礎杭工）です。

この道路は、能登地域の農業振興には欠かせない広域基幹農道であり、近隣住民の生活道路や交流人口を促進する観光道路、さらには災害時の国道・県道の代替道路としても寄与する重要な路線となっています。

## 鹿児島3号<sup>ろぎ</sup>櫛木川橋上部工工事 〔鹿児島県〕

南九州西回り自動車道は、八代市を起点とし、水俣市、出水市、薩摩川内市を経て鹿児島市に至る総延長140kmの高規格幹線道路です。櫛木川橋は、鹿児島県出水市に位置する橋長287mのPC8径間連結T桁橋です。

当該路線の開通により、九州南西部の産業・文化・経済の発展に寄与することが期待されています。



# 完成工事のご紹介・・・建築編

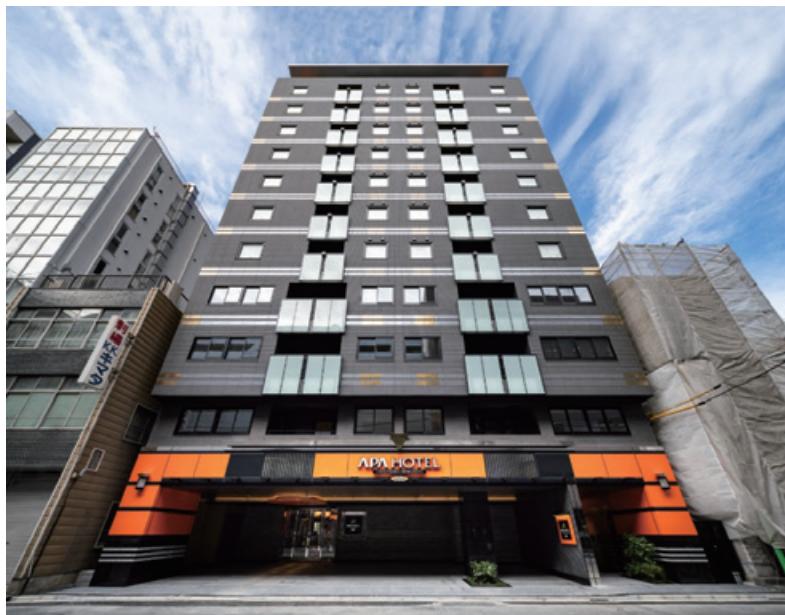


## 湘南医療大学薬学部校舎新築工事

[神奈川県]

本物件は、学校法人湘南ふれあい学園湘南医療大学の東戸塚キャンパス内に建設され、土地の高低差を活かして機能的に施設が配置されています。コロナ禍において、医療機関の拡充が求められる中、薬学部建設は国内医療関係にとって重要な位置づけとなっています。





## アパホテル秋葉原駅東新築工事 【東京都】

本物件は、神田川左岸沿いの細いエリアに立地した、鉄骨造11階建ての複合ビルです。

ホテル全168室・共同住宅6戸、1階には24時間利用可能な無人型ミニコンビニエンスストアが併設されています。



## 明倫学園校舎棟建設工事の内建築工事 (PC工事) 【山形県】

本物件は、小学校2校、中学校1校の合併により生まれた義務教育一貫校であり、次世代を担う子どもたちを明るく健やかに育む学び舎として期待された建物です。構造体フレームはPCaPC造となっています。

※PCaPCに関しては  
詳しくはこちら



## シグマ新本社ビル新築工事

(PC工事)  
[神奈川県]

本物件は、日射しに対して有効な縦ルーバーにPCaPC造の薄肉柱を採用し、仕上げ材兼構造部材として使い合理化を図っています。さらに、床をせん断連結床板とすることで広い執務空間を創り出しています。



## 株式会社太平社工場【ちとせBASE】

[東京都]

東京都墨田区に在る広報ツールの企画・制作・製造の専門会社の工場を、当社の設計施工にて建設しました。当社コア技術であるPC技術を、現場施工のポストテンション方式で採用することで、都心の限られた土地に印刷機械等の配置に必要な大空間を実現させた印刷・製本工場です。

# 会社情報

## ■ 会社概要

商号	株式会社ピーエス三菱 P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.
設立	1952年3月1日
資本金	4,218,500,000円
従業員数	単体：1,105名 (2022年3月31日現在) 連結：1,684名
本社・支店	(2022年4月1日現在)
本社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9111
東京土木支店	〒104-8572 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9511
東京建築支店	〒104-8572 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9611
札幌支店	〒001-0010 北海道札幌市北区北10条西二丁目13番地2 (011) 717-2133
東北支店	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町一丁目8番1号 (022) 223-8121
名古屋支店	〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内一丁目17番19号 (052) 221-8486
大阪支店	〒530-6027 大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番30号 (06) 6881-1170
広島支店	〒730-0016 広島県広島市中区鞆町13番15号 (082) 223-5092
九州支店	〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜二丁目4番1号 (092) 739-7001

## ■ 役員 (2022年6月22日現在)

### 取締役および監査役

代表取締役	森 拓也
代表取締役	蔵 本 修
代表取締役	居 村 昇
取締役	三 島 康 造
取締役	佐々木 晋
取締役	佐 野 裕 一
取締役	中 野 幸 正
取締役	加 藤 秀 樹
取締役	保 坂 美 江 子
常勤監査役	朝 倉 浩
常勤監査役	水 嶋 一 樹
常勤監査役	小 山 靖 志

(注) 取締役佐野裕一、中野幸正、加藤秀樹、保坂美江子の4氏は社外取締役であります。

監査役朝倉浩、水嶋一樹の両氏は社外監査役であります。

### 執行役員 (※は取締役兼務)

※ 社長執行役員 (全般統理)	森 拓也
※ 副社長執行役員 (社長補佐・土木本部長・ 海外事業担当兼国内関係会社担当)	蔵 本 修
※ 専務執行役員 (建築本部長)	居 村 昇
※ 常務執行役員 (技術本部長・安全品質環境担当)	三 島 康 造
※ 常務執行役員 (管理本部長)	佐々木 晋
常務執行役員 (経営企画担当 兼サステナビリティ推進担当)	川 原 利 朗
常務執行役員 (建築本部副本部長)	光 田 秀 幸
常務執行役員 (東京土木支店長)	森 島 修
常務執行役員 (大阪支店長)	藤 原 博 之
執行役員 (東京建築支店長)	寒 川 勝 彦
執行役員 (建築本部副本部長 兼建築営業部長)	宮 岡 良 幸
執行役員 (海外事業室長)	榎 谷 孝 志
執行役員 (名古屋支店長)	田 原 道 和
執行役員 (土木本部副本部長 兼土木営業部長兼高速鉄道推進室長)	櫻 林 美 津 雄

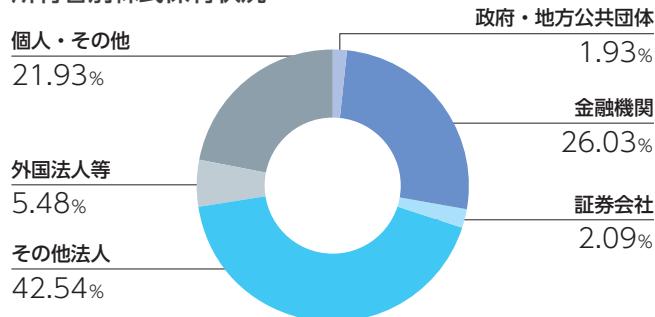
## ■ 株式の状況 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	11,000万株
発行済株式の総数	47,486,029株
株主数	12,844名

### 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
三菱マテリアル株式会社	15,860,354	33.48
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 太平洋セメント口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	4,491,300	9.48
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	3,158,000	6.66
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,091,200	6.52
住友電気工業株式会社	1,834,800	3.87
岡山県	839,740	1.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (役員報酬BIP信託口・75949口)	665,840	1.40
RE FUND 107-CLIENT AC	505,252	1.06
三菱地所株式会社	496,000	1.04
ピーエス三菱取引先持株会	461,460	0.97

### 所有者別株式保有状況



## 株主様アンケート結果のご報告

第74期中間株主通信において実施させていただきましたアンケートでは、大変多くの株主様にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この貴重なご意見・ご要望を真摯に受け止め、今後の株主通信の発行およびIR活動に活かし、取り組んでまいります。

### 当社の株式を購入された理由 (複数回答)



### 充実を希望する情報について (複数回答)



### ご意見・ご要望 (要旨抜粋)

- ・自らの投資がいろいろな果実となり社会に還元されていることを投資家として理解できて好感が持てた
- ・巨大ビルからインフラ等、幅広い事業を手掛けていることを知れた。今後もさまざまな建物を紹介してほしい
- ・脱炭素社会でいかに利益を出して、かつ社会貢献できるか、難しい課題であるがグループ一丸となり取り組んでほしい

### ホームページのご案内

財務・業績情報、IR資料、プレスリリース等、IRに関する情報をタイムリーに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

<https://www.psmic.co.jp/>



## ■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.psmic.co.jp/">https://www.psmic.co.jp/</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
単元株式数	100株

### (ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。  
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com> **いいかぶ** **検索**  
アクセスコード 1871

 **空メールによりURL自動返信** [kabu@wjm.jp](mailto:kabu@wjm.jp)へ空メールを送信してください。  
(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

**ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます**

 ※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2media についての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」MAIL: [info@e-kabunushi.com](mailto:info@e-kabunushi.com)

## 表紙の説明



本工事は、佐賀県伊万里市に位置し国道204号と国際コンテナターミナル等を結び臨港道路の橋梁区間（全橋長431m）のうち、120.5mのPC3径間連結T桁橋の上部工工事です。

当該路線の開通により、七ツ島コンテナターミナルでのコンテナ取扱量の増大に伴う周辺道路の混雑緩和や貨物輸送の円滑化等が期待されています。

### コーポレートマーク



生命の神秘である植物の発芽がモチーフです。発芽は、力強い成長を意味し、新分野・新領域の開拓を表現しています。  
また、オレンジが大地（＝土木）、ブルーが空（＝建築）、全体で地球をイメージして、自然と共生する企業を具象化しています。



**UD FONT** 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物は、有機溶剤等を使用しない環境にやさしい「水なし印刷」で印刷し、「ベジタブルインキ」を使用しております。また、針金を使わずに製本しております。